

SCHEDULE

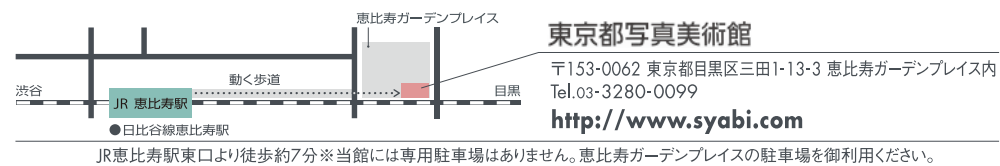
東京都写真美術館展覧会スケジュール

2009	3階展示室	2階展示室	地下1階展示室	1階ホール
6	 撮影者不詳《桜花と人力車》1870年 コレクション展「旅」 第1部 東方へ 19世紀写真術の旅 5月16日(土)～7月12日(日)	 プレス・カメラマン・ストーリー 5月16日(土)～7月5日(日)	第34回 2009JPS展 5月23日(土)～6月7日(日) 	カメラマン 東洋宮武が覗いた時代 4月11日(土)～5月22日(金) 
7	コレクション展「旅」 第2部 異郷へ 写真家たちのセンチメンタルジャーニー 7月18日(土)～9月23日(水・祝)	 ジョルジュ・ピゴール展 7月11日(土)～8月23日(日)	世界報道写真展2009 6月13日(土)～8月9日(日) 	© オフィスフォープロダクション BASURA バスーラ 6月27日(土)～
8	コレクション展「旅」 第2部 異郷へ 写真家たちのセンチメンタルジャーニー 7月18日(土)～9月23日(水・祝)	 《U.S.S.R.1991》1991年 北島敬三 KITAJIMA KEIZO 1975-1991 (仮称) 8月29日(土)～10月18日(日)	稲越功一写真展(仮称) 8月20日(木)～10月12日(月・祝)	
9	渡辺義雄《ワチカン市国》1956年 コレクション展「旅」 第3部 異邦へ 日本の写真家たちが見つけた異国世界 9月29日(火)～11月23日(月・祝)	セバスチャン・サルガド AFRICA(仮称) 10月24日(土)～12月13日(日)	第20回JPA展 10月17日(土)～11月1日(日)	
10	木村伊兵衛とアンリ・カルティエ＝ブレッソン展(仮称) 11月28日(土)～2月7日(日)	日本の新進作家vol.8 旅(仮称) 12月19日(土)～2月7日(日)	写真新世紀東京展2009 11月7日(土)～11月29日(日)	
11			第10回上野彦馬賞展 12月5日(土)～12月13日(日)	
12			映像をめぐる冒険vol.2 アニメーション 欲動する身体(仮称) 12月22日(火)～2月7日(日)	

※スケジュール・展覧会タイトル等は予告なく変更される場合があります。最新の情報はホームページをご覧ください。

ご利用案内
● 休館日：毎週月曜日、年末年始
※月曜日が祝日または振替休日の場合、その翌日。ただし9/21～9/27は無休
● 開館時間：10:00～18:00(木・金は20:00まで)入館は閉館の30分前まで

割引チケットの販売
お得な割引料金で2会場以上を自由に組み合わせてご覧いただける割引チケットを販売しております。詳しくはチケット売り場でおたずねください。



※本誌編集ページに掲載されている観覧料および商品の価格は、原則として消費税込みの価格です。
東京都写真美術館ニュース「アイズ09」62号 ●発行日：2009年5月22日 / 企画・編集：東京都写真美術館事業企画課 普及係
●印刷・製本：光写真印刷株式会社 ●発行：財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 ©2009 ●本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。



北島 敬三

KITAJIMA KEIZO

コザ／東京／ニューヨーク／東欧／ソ連 1975-1991

Topics

東京都写真美術館では新重点収集作家である北島敬三の展覧会を開催します。作品制作中の北島氏に、映像作家の小原真史氏がインタビューを行いました。



NEW YORK 1981-82年

— 北島敬三が70～80年代に撮影したストリートスナップを中心に構成される東京都写真美術館の「北島敬三 1975-1991」展。数十年前の写真を今見せることの意味とは？

6年くらい前から手元に残っているネガを全部見直して、あらためてプリントを作っているのですが、それは私にとって単に「昔の写真」ではありません。それを現在に接続する回路というものごとかに残されているはずですし、何でもな一枚の写真がある時突然リアリティをもって立ち上がってくる可能性は常に存在し続けているのではないのでしょうか。そういう写真の物質的抵抗性に賭けてみたくて、今回は初期のストリートスナップを中心に構成することにしました。

— 「WORKSHOP写真学校」の森山大道教室から、自主運営ギャラリー「CAMP」へ。森山をして「白昼の通り魔」と言わしめた若きイメージハンターは「CAMP」のシンボルマークであった虻のように都市の雑踏を自在に飛び回り、行き交う人々の姿をカメラに収めていった。森山大道の圧倒的な影響下で写真を始めながらも、独自の道を摸索する北島が出会った最初の被写体は、ベトナム戦争下に栄えた沖縄の歓楽街、コザ（現沖縄市）であった。

1975年にとりあえず入っただけの大学を辞めて「WORKSHOP写真学校」へ

行きました。その後は森山さんたちと立ち上げた自主ギャラリー「CAMP」を拠点にしばらく活動していましたが、当時森山さんに「人間を撮らなきゃだめだよ」といわれたことをよく覚えています。まだ写真を始めたばかりの私は「人を撮る」という森山さんの欲望を半ば引き受けるような形で撮影に向かった部分があったのかもしれませんが。

最初に「復帰」後間もない沖縄と東京を往復しながら、その後はニューヨーク、西ベルリン、東ヨーロッパなどに滞在して手探りで撮っていきました。結果的に冷戦期の西と東を象徴する場所を選んでいくことになるわけですが、やはり被写体として面白い場所はそういう政治的緊張感のある都市だったのでしょうか。ただ最初に撮ったコザに関しては、「沖縄」という問題が自分の中で大きくなってきたこともあり、発表しきれずに挫折してしまいました。若かったからかもしれませんが、今度撮る時はどんなにつらくても発表しようと、逆にいえばそう思えない場所は撮らないと決めました。コザをきっかけにして行ったニューヨークは、資本主義陣営を代表する街だけあって、広告やテレビなどのイメージに浸透されつくしたかのような人々の姿が印象的で、その後に撮影した東ヨーロッパとは人の顔も全然違いました。

— 1991年、崩壊直前のソ連を撮影した北島は、その16年後になって「U.S.S.R. 1991」を発表。忘却の淵から這い出してきたかのような旧ソ連の人々の姿はわれわれを驚かせた。歴史に対する「写真の物質的抵抗性」をまざまざと見せつけられた形となったが、ファインダー越しの瞬間だけでなく、それを見せる時をもとらえることに長けた写真家だといえる。冷戦構造の終わりとともに都市の様相が劇的に変化していった90年代、ストリートスナップの名手とその強力な武器であった小型カメラの機動力を捨てて、大型カメラによる肖像のアーカイヴへと向かう。

15年くらいスナップショットを続けましたが、シャッターチャンスや、フレーミングに重きを置いたような写真がだんだんとつまらなく思えてきて、3、4年モヤモヤした状況が続いた中で、1991年に雑誌の仕事も兼ねてソ連へ撮影に行きました。ソ連という一つの体制が崩壊することによって、そこに住む人の顔も服装も一変してしまうことを目の当たりにしたこともあり、顔が自分の主題として大きくなっていきました。この時期の撮り方としてはストリートスナップとポートレイトの中間で、その人が身につけている社会的地位を示すような記号や、属している空間も含めた全身像を撮っていました。ちょうど試行錯誤していた時期のものです。街を歩きながら撮影する方法にリアリティを感じられなくなったこともあり、90年代あたりから三脚と大型カメラで複数の人物の肖像を経年的に撮っていく方法に切り替えて、それが現在まで続く「PORTRAITS」のシリーズになっています。



KOZA 1975-80年



U.S.S.R. 1991 1991年



NEW YORK 1981-82年



PRAHA 1983年

一肖像から表情や背景を削ぎ落とし、最後に残った「ただの顔」の集積とそこから見えてきたものとは。時とともに変容する写真群。

「PORTRAITS」は白いシャツを着た人を白バックで証明写真のように撮影していく作業なので、シャッターチャンスや「いい写真」「悪い写真」ということも起こりえないはず。そうすると全ての写真が等価で、極端に言えば「古い写真」や「新しい写真」も関係なくなって、構造的には一枚一枚が横並びの写真群になります。そういう作業を継続していくうちに、だんだんと昔撮った写真も現在の「PORTRAITS」と同じ手つきで扱うべきなのではないかと考えるようになりました。写真を単なる過去の記録として消費するのではなく、それを「現在の写真」として甦らせるような回路を開いてやるのが重要なのではないのでしょうか。撮影から何十年と時間が経つと、かつて撮った場所も政治的状況の変化と共に大きく姿を変えており、もう写真の中にしか存在していませんが、その写真は「現在の写真」としてまざざと存在しています。言葉やほかのメディアとは違った写真のモノとしての抵抗力を、この展覧会で私自身も見てみたいのです。だから「私の写真」というよりも、写真を介してそこに写っている人やその場所を見てもらいたいし、今の自分は丁寧にプリントを仕上げることなのだと思います。

[インタビュー 2009年4月]

インタビューと文 小原真史 (kohara masashi)
映像作家。監督作品に「カメラになった男 写真家 中平卓馬」。現在、古屋誠一のドキュメンタリー映画を撮影中。IZU PHOTO MUSEUM研究員。



NEW YORK 1981-82年

2F

2階展示室 Exhibition Gallery

友の会無料 三越カード割引 アトレカード割引

8月29日(土) → 10月18日(日)

北島敬三 KITAJIMA KEIZO 1975-1991

コザ/東京/ニューヨーク/東欧/ソ連

□ 一般 500(400)円 □ 学生 400(320)円 □ 中高生・65歳以上 250(200)円

()は20名以上の団体および、上記カード会員割引料金

※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□主催：東京都 東京都写真美術館/産経新聞社 □協賛：エプソン販売株式会社

□後援：サンケイスポーツ/タ刊フジ/フジサンケイビジネスアイ/iza!/SANKEI EXPRESS



U.S.S.R.1991 1991年



東京 1979年

北島敬三は1975年に開催した写真展「BCストリート・オキナワ」で華々しくデビューし、若くして高い評価を受けました。「WORKSHOP写真学校」の二期生である北島は、森山大道らとともに自主運営ギャラリー「イメージジョブ CAMP」を設立し、月に一度の連続写真展「写真特急便 東京1〜12」を開催するなど、精力的に作品を発表していきます。1983年、写真集『NEW YORK』で第8回木村伊兵衛賞を受賞。その後も東京、ニューヨーク、西ベルリン、プラハ、ブタペストなどを挑みかかるように撮影し、その肉感的なモノクロームと荒々しいストリートスナップは北島の代名詞となっていきました。2007年には崩壊直前のソ連を撮影した「U.S.S.R.1991」で第32回伊奈信男賞を受賞。今年5月

には、約800頁からなる16年ぶりの写真集『THE JOY OF PORTRAITS』が出版されるなど、これまでヴェールに包まれていた全貌が明らかになりつつあります。この展覧会では、70〜80年代に撮影された作品約150点を紹介。冷戦時代のストリートを主戦場にしてきた北島が描く軌跡と、国内外で高く評価されるそのシャープなプリントを実見するまたとない機会となることでしょう。

❖ 担当学芸員によるフロアレクチャー

第2・4金曜日 14:00〜

※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。

❖ 展覧会関連イベント

詳細は決定次第ホームページで発表します。

2F

2階展示室 Exhibition Gallery

友の会無料 三越カード割引 アトレカード割引

5月16日(土) → 7月5日(日)

プレス・カメラマン・ストーリー

□ 一般 500(400)円 □ 学生 400(320)円 □ 中高生・65歳以上 250(200)円

()は20名以上の団体および、上記カード会員割引料金

※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催：東京都 東京都写真美術館
□ 共催：朝日新聞社 □ 後援：日本新聞博物館

本展では、昭和の戦前・戦中・戦後の一時期に、作家性を強く意識した5人のプレスカメラマンを中心にスポットをあて、プレス写真の使命とはなにかを考察します。

朝日新聞社を支え、花形プレスカメラマンとして活躍した影山光洋、大東元、吉岡専造、船山克、秋元啓一をはじめとする写真家たち。彼らは自社の仕事のみならず、他社の雑誌にも作家性を強く打ち出した作品を発表し、フリーの写真家たちと同じように自由な創作活動を行いました。

「伝えること」や「記録すること」を超え、普遍的な美を携えたプレス写真の数々を展示します。

また今回は特別に朝日新聞社所蔵の「歴史写真アーカイブ」と、ベトナム戦争の写真の一部も紹介。初公開も含めた約240点の作品を通じて、プレス・カメラマンがどのようなシステムを背景に仕事をしたのかを検証します。

担当学芸員によるフロアレクチャー
第2・4金曜日 14:00～
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。

展覧会関連講演会

5月17日(日) 1階創作室(アトリエ)

□第1部 13:00～15:00 玉木明(ジャーナリスト)×戸田昌子(写真史研究者)

□第2部 16:00～18:00 吉江雅祥(全日本写真連盟顧問)×白谷達也(写真家)

※当日午前10時より本展覧会の半券(当日有効)をお持ちのかたに整理券を配布します。

※第1部、第2部は別々の整理券が必要となります。

船山克 道 「東京」より 1953年



B1F

地下1階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 三越カード割引 アトレカード割引

6月13日(土) → 8月9日(日)

世界報道写真展2009

□ 一般 700(560)円 □ 学生 600(480)円 □ 中高生・65歳以上 400(320)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、上記カード会員割引料金

※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催：朝日新聞社 / 世界報道写真財団 □ 共催：東京都写真美術館
□ 後援：オランダ大使館 / 社団法人日本写真協会 / 社団法人日本写真家協会
□ 協賛：キヤノン株式会社 / キヤノンマーケティングジャパン株式会社 / ティエヌティエクスプレス株式会社

「世界報道写真展」はオランダに本部をおく世界報道写真財団が開催するプロの写真家を対象にした「世界報道写真コンテスト」の入賞作品で構成する写真展です。52回目を迎える今年のコンテストには、124カ国から過去最高の5,508人、9万6,268点の作品が寄せられました。本展ではそのなかから選ばれた入賞作品約200点をご紹介します。世界最高水準の報道写真には、四川大地震の生存者を搬送する救急隊、風俗店で働くホンジュラスの性転換者、チリで噴煙をあげるチャイテン山など、昨年、世界各地で起こった真実がまざまざと映し出されています。

いま、地球が抱える“表情”を、この機会に是非、ご覧ください。



2008年世界報道写真大賞 アンソニー・スアウ / アメリカ、タイム誌
アメリカの経済危機一立ち退きを言い渡された住民が家に残っていないことを確認して
まわる警官バート・コール(=3月26日、オハイオ州クリーブランド)

関連イベント

□ 講演会 6月13日(土) 14:00～16:00

アンソニー・スアウ氏(世界報道写真大賞受賞カメラマン)
※当日午前10時より本展覧会の半券をお持ちのかたに整理券を配布します。

□ ワークショップ「一日報道カメラマン」7月11日(土)

小中学生を対象とした報道カメラマンの体験ワークショップ
※要事前申込。詳細はホームページをご覧ください。

□ 若手カメラマンによるトークセッション

「報道現場からの報告」
7月12日(日) 出演者：千葉康由氏、会田法行氏
※当日午前10時より本展覧会の半券をお持ちのかたに整理券を配布します。

□ 第2回 写美フォトドキュメンタリー・ワークショップ

7月18日(土)～20日(月・祝)
締切：6月15日(月) 定員：20名
フォトジャーナリズム、フォトドキュメンタリーの現場を学べるプログラム
※要事前申込。詳細はホームページをご覧ください。



「ニュースの中の人びと」の部 単写真1位
千葉康由 / 日本、AFP通信
部族間の対立(=3月1日、ケニア西部)

3F

3階展示室 Exhibition Gallery

友の会無料 三越カード割引 アトレカード割引

7月18日(土) → 9月23日(水・祝)

平成21年度 東京都写真美術館収蔵展 「旅」
第2部：異郷へ 写真家たちのセンチメンタル・ジャーニー

□ 一般 500(400)円 □ 学生 400(320)円 □ 中高生・65歳以上 250(200)円

()は20名以上の団体および、上記カード会員割引料金

※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催：東京都 東京都写真美術館

本展は写真術が発明された19世紀から現代に至るまで、「旅」というテーマから生み出されたさまざまな表現を持つ作品を、異なる3つのアプローチにより構成。約半年間に渡り、3回シリーズにてご紹介いたします。

シリーズ第2部の「異郷へ」は、1970年前後に発表された戦後世代の日本の写真家たちの作品で構成いたします。70年に行われた旧国鉄のキャンペーン「ディスカバー・ジャパン」のコンセプトは「日本を発見し、自分自身を再発見する」でした。この時代の写真家たちは、旅をしながら、新たな日本の発見と、自分自身の作品の模索をしていきます。そこに写された風景は有名な観光地だけではなく、誰も行かない地方の山奥も、ありきたりの街並みも含まれ

ています。旅をしながら写真家たちは何を探し、何を見つけたのかをさぐっていきます。東京都写真美術館の2万4,000点余におよぶコレクションから選りすぐられた名品の数々をお楽しみください。

【第2部 出品予定作家】

荒木経惟、秋山亮二、森山大道、柳沢信、須田一政、内藤正敏、北井一夫、牛腸茂雄、土田ヒロミ

❖ 展覧会関連講演会

□ 9月22日(火・祝) 14:00~16:00

講師：柳本尚規(写真家・東京造形大学教授) 会場：1F創作室

※当日午前10時より本展覧会の半券(当日有効)をお持ちのかたに整理券を配布します。

❖ 担当学芸員によるフロアレクチャー

第2・4金曜日 14:00~

※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。



柳沢信 岩国にて「片隅の光景」1972年



荒木経惟 「センチメンタルな旅」より 1971年



須田一政 [神奈川・鎌倉]「風姿花伝」より 1976年



森山大道 [網走]「北海道」より 1973年



秋山亮二 [鎌倉の海岸に立つ若いカップル]「旅ゆけば...」より 1970-71年

公式ガイドブック「旅する写真」

「旅」展 第1部～第3部の出品作品より、代表的な作品を収録した公式ガイドブックです。写真術の変革が見てとれ、国内から海外へと展開する旅写真を1冊にまとめた保存版です。

旅行読売出版社刊
東京都写真美術館編
定価1,680円(A5判 168ページ)
※当館ミュージアムショップ(03-3280-3279)
および全国書店にて好評発売中です

7月12日(日)まで開催中!

第1部「東方へ 19世紀写真術の旅」

幕末から明治半ばにかけて、極東への憧れをもって日本を訪れた外国人旅行者に向けてお土産用に製作された手彩色写真を中心に展示構成。併せてヨーロッパから極東へと至る旅行写真の系譜もたどります。

予告 9月29日(火) ▶▶▶ 11月23日(月・祝)

第3部「異邦へ 日本の写真家たちが見つめた異国世界」

日本の写真家たちが旅先で捉えた海外への視線を辿ります。安本江陽による郷愁漂う風景から、渡辺義雄による生き生きとした海外の街のスナップショットといった、日本の写真史を確立させた名写真家たちによる新鮮な異国での光景を、異邦人として旅した彼ら日本人写真家たちの視覚を通して、鮮やかに蘇らせます。

2F

2階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 | 三越カード割引 | アトレカード割引

7月11日(土) → 8月23日(日)

ジョルジュ・ビゴー展 — 碧眼の浮世絵師が斬る明治 —

□ 一般 800(640)円 □ 学生 700(560)円 □ 中高生・65歳以上 600(480)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、上記カード会員割引料金
 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催：財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／東京新聞
 □ 協賛：NECディスプレイソリューションズ



下岡蓮杖 題不詳(豆腐屋と客) 明治初期

☒ カフェトーク 2階 カフェ・シャンブルクレール

□7月17日(金) 18:00~20:00

ゲスト：及川茂氏(日本女子大学教授・ジョルジュ・ビゴー展監修者)
 参加費：1,000円(観覧料・ドリンク代込み) 定員：35名(先着順)
 申込方法：往復はがき(応募締切7月10日)
 ※詳細は決定次ホームページで発表します。

☒ 担当学芸員によるフロアレクチャー

第1・3・5金曜日 16:00~

※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。

文明開化の時期に来日したフランス人画家、ジョルジュ・ビゴー(1860-1927)。急速に近代化する日本を目の当たりにした彼は、好奇心と親しみを持って、さまざまな日本の情景を描き、その姿を西洋に伝えました。

数多く残された作品のなかでも、西洋を追いかけて近代化する日本が描かれた画集『あさ』『また』『おはよ』や『クロッキー・ジャポネ』などは、来日直後に彼が見た日本が生き生きと映し出された傑作です。歴史教科書で著名な『釣りの勝負』が収録される雑誌『トバエ』では、美しい日本を捨て、ひたすらに欧米の真似をすることが高尚だと信じていた明治の日本人の姿を見過ごすことなく伝えました。

しかし、ビゴーが共感と同情を込めて描いた作品は、当時の日本人にとっては快いものではなかったのかもしれない。官憲から目をつけられたビゴーに対して、日本人の目は徐々に厳しいものになっていきました。帰国後、パリで風刺挿絵画家としてデビューをしたビゴーですが、わずか6年で郊外へと移住。生活のため、挿絵の仕事を引き受けて暮らしたといえます。

本展では、渡日前にビゴーが描いた新聞や雑誌への挿絵から、日本で出版した画集、そしてこれまであまり紹介されることのなかった帰国後の作品など、彼の仕事を網羅する資料を展示することで、ビゴーの全生涯を明らかにいたします。

近年発見された『クロッキー・ジャポネ』のオリジナル銅版の展示のほか、この原版数点からのプリントなど、貴重な試みも行おう予定です。

美しい日本をこよなく愛し、世界に伝えたビゴー。幕末や明治初期の風俗、磐梯山の噴火、日清戦争など日本の初期写真を併せて紹介することで、写真史からみたビゴーの魅力と、ビゴーを魅了した日本の姿にもせまります。



ジョルジュ・ビゴー 《洋行帰りの夫婦》『日本人の生活』第2次第1号より 1898年



田中美代治 《磐梯山・蒸気噴出》1888年



ジョルジュ・ビゴー [クロッキー・ジャポネ]表紙 1886年 及川茂コレクション蔵



ジョルジュ・ビゴー 《釣りの勝負》『トバエ』第2次第1号より 1887年 横浜開港資料館 ブルーム・コレクション蔵

B1F

地下1階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 | 三越カード割引 | アトレカード割引

8月20日(日) → 10月12日(日) 祝

稲越功一写真展 (仮称)

□ 一般 700(560)円 □ 学生 600(480)円 □ 中高生・65歳以上 500(400)円

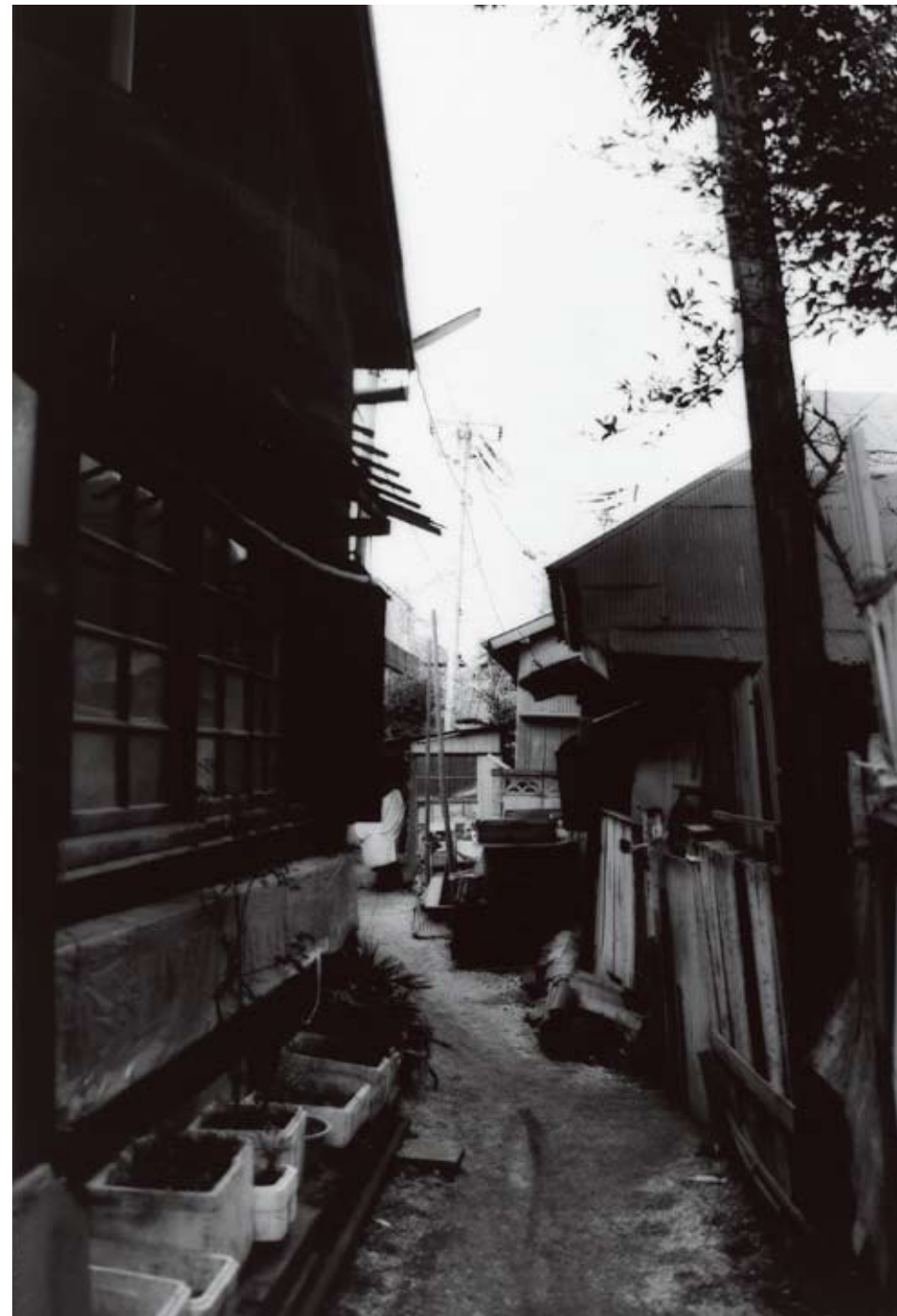
()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料□ 主催：財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/東京新聞 □ 協賛：佐多宗二商店 ほか
□ 協力：キヤノンマーケティングジャパン株式会社 ほか

1960年代後半から顕著になるプライベートな眼差しで日常的な光景を切り取った稲越功一(1941-2009)の写真表現は、その後の日本の写真に新たな水脈をもたらしたといつてよいでしょう。稲越功一は、商業写真家として活躍を始めると同時に、自分自身のために写真を撮り始め写真集『Maybe Maybe』(1971)を刊行し、シリアス・フォトの写真家として注目を集めます。その後も、商業写真家や肖像写真家として多彩な活動を展開する一方、

プライベートで純粋なスナップショットの眼差しで風景を撮影し続け、写真集『記憶都市』(1987)、『Out of Season』(1996)、『Ailleurs』(1996)などを刊行していきます。本展覧会では、70年代初頭に注目されたスナップショットの眼差しの系譜を、日常的な光景をモノクロームでとらえた作品を中心にたどりま。写真家稲越功一の原点があざらかにされるだけでなく、シリアス・フォトの眼差しがとらえた時代の風景、時代の感性が見て取れるはずです。



『Maybe Maybe』(1971年)より



『記憶都市』(1987年)より

Film Series
Vol.47

BASURA バスーラ

オフィスフォープロダクション | 03-6425-9037

- 上映スケジュール：6月27日(土)～
- 上映時間：未定
- 料金：一般 1,800円 / 学生 1,500円
シニア(60歳以上)1,000円 / 高校生以下無料

第一作『忘れられた子供たち』の撮影開始から20年。第二作『神の子たち』から8年。
貧困と飢餓の中を生きる人間に宿る“命の輝き”を見つめ続けてきた四ノ宮浩監督最新作!

マニラ近郊の巨大なゴミ捨て場“スモークマウンテン”には、40年以上にわたりゴミを拾って転売することを生業とする2万人以上の人々が暮らしていた。しかし、世界から“貧困の象徴”として注目されることに耐えかねた政府により1995年11月、突如閉鎖されてしまう。生活の場を失った人々に対し政府がスモークマウンテンから徒歩10分のところにアロマ仮設住宅を用意するも、住民の大半はその仮設住宅の影に隠れるように作られたあらたなゴミ集積場で以前と変わらぬゴミ拾い生活を続けていた。一方、第一作に登場したクリスティーナやイルミナダー一家は新生活をスタートさせていたが、さまざまな問題を抱えていた……。



© オフィスフォープロダクション

museum shop



ミュージアムショップ
「ナディッフ バイテン」

営業時間 10:00-18:00(木・金は20:00、土は18:30)
◎お問い合わせ：Tel.03-3280-3279

ecobag

エコバッグの第2弾ができました!今回は、北欧フィンランドの女性デザイナー IVANAhelsinki+による、鳥の羽とナイフを配した素敵なデザインです。



Lサイズ(限定品)黒
735円(税込)
Mサイズ 茶/グレー
525円(税込)

www.syabi.com/shop/shop.html

cafe



カフェ
『サンプル クレール
～明るい部屋～』

営業時間 [1階]10:00-20:00(日曜日は18:00まで)
[2階]10:00-18:00
◎お問い合わせ：Tel.03-5798-2218

beer

ハーブの香るさわやかな飲口のベルギーの白ビール。
暑くなっていくこの季節を、優雅に演出します。
ぜひご賞味下さい。



VEDETT EXTRA WHITE
ヴェデット エクストラ ホワイト
330ml 1,000円(税込)

www.syabi.com/cafe/cafe.html

維持会員 Corporate Members

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、次の企業・団体に維持会員としてご入会いただきました。
※詳しくはホームページをご覧ください。

http://www.syabi.com/member/member.html

特別支援会員

株式会社キヤノン
株式会社資生堂

特別維持会員

株式会社キタムラ
大日本印刷株式会社
東京電力株式会社
凸版印刷株式会社
株式会社ニコン
富士フイルム株式会社
株式会社リコー

維持会員

株式会社&S BBDO
株式会社アイテム
株式会社アサツ ディ・ケイ
旭化成株式会社
朝日新聞社
朝日生命保険相互会社
アサヒビール株式会社
朝日放送株式会社
株式会社アネット婦人画報社
アップルジャパン株式会社
株式会社アートよみうり
株式会社アマナ
イー・ギャランティ株式会社
株式会社若波書店
エスエス製菓株式会社
株式会社NHKアート
株式会社NHKエデュケーション
株式会社NHKエンタープライズ
株式会社NHKプロモーション
株式会社NTTデータ
株式会社NTTドコモ
NTT都市開発株式会社
株式会社エフエム東京
エフエム販売株式会社
エルメスジャパン株式会社
株式会社大塚商会
オムロン株式会社
オリックス株式会社
オリックスイメージング株式会社
株式会社オワード登山
科研製菓株式会社
カンオ計算機株式会社
鹿島建設株式会社
株式会社角川書店
カトーレック株式会社
カルピス株式会社
株式会社カンパセーション アンドカムパニー
株式会社キクチ科学研究所
キッコーマン株式会社
株式会社紀伊國屋書店
キハラ株式会社
キャンマークディングジャパン株式会社

株式会社TBSテレビ
株式会社デー・オー・ダブリュー
株式会社テレビ朝日
株式会社テレビ東京
電源開発株式会社
株式会社電通
東亜建設工業株式会社
東京ガス株式会社
東京急行電鉄株式会社
東京工芸大学
東京新聞・中日新聞社
株式会社東京スタテオ
東京造形大学
東京総合写真専門学校
東京テアトル株式会社
東京都競馬株式会社
株式会社東京ドーム
株式会社東京美術倶楽部
東京メトロ有楽町線テレビジョン株式会社
株式会社東芝
東宝株式会社
株式会社東北新社
株式会社徳間書店
図書印刷株式会社
戸田建設株式会社
トヨタ自動車株式会社
日外アソシエーツ株式会社
日油株式会社
株式会社日経BP
日産自動車株式会社
株式会社日本カメラ社
日本経済新聞社
日本興亜損害保険株式会社
株式会社日本広告社
社団法人日本広告写真家協会
日本写真印刷株式会社
社団法人日本写真家協会
社団法人日本写真協会
日本写真芸術専門学校
日本写真作家協会
社団法人日本写真文化協会
日本大学芸術学部
日本たばこ産業株式会社
日本テレビ放送網株式会社
日本ハム株式会社
日本ビューレット・バクカード株式会社
株式会社ニッポン放送
日本レックス株式会社
株式会社ニューアートディフュージョン
野崎印刷製菓株式会社
株式会社博報堂
株式会社バス・コミュニケーションズ
パナソニック株式会社
株式会社林原生物化学研究所
びあ株式会社
北海道 写真の町東川町

東日本旅客鉄道株式会社
光写真印刷株式会社
株式会社美術出版社
株式会社日立製作所
株式会社日立物流
株式会社ビックカメラ
株式会社ビデオプロモーション
ヒノキ製菓株式会社
株式会社アーストリディング
富国生命保険相互会社
富士重工業株式会社(スバル)
富士ゼロックス株式会社
株式会社アンテレビジョン
株式会社扶桑社
株式会社アラザクリエイト
株式会社アリズスト
株式会社アリスホテル
株式会社アプレムマン
株式会社文藝春秋
株式会社ベネッセコーポレーション
株式会社ホテルオークラ
HOYA株式会社 PENTAX(イマジン)システム事業部
株式会社堀内カラー
本田技研工業株式会社
毎日新聞社
株式会社マジックハウス
マミヤ・デジタル・イメージング株式会社
丸善株式会社
株式会社マダム
三井倉庫株式会社
三井不動産株式会社
株式会社三越
三菱地所株式会社
三菱製紙株式会社
武蔵大学
森ビル株式会社
モルガン・スタンレー証券株式会社
株式会社ヤナセ
ヤマロジスティクス株式会社
ユサコ株式会社
ユニバーサルジャパン株式会社
横河電機株式会社
株式会社吉野工業所
株式会社コトバカメラ
読売新聞社
ライオン株式会社
ライカカメラジャパン株式会社
リジューンジャパン株式会社 モンブラン
株式会社ワコール

(平成21年4月現在・五十音順)

友の会 Support

東京都写真美術館では、随時新規会員の募集をしています。展示会のご招待・割引、上映映画の割引をはじめ、たくさんの特典をご用意している他、関連施設での割引もございます。開館時間中(10:00~18:00、木・金は20:00まで)に当館1階チケットカウンター横「友の会カウンター」にてご入会いただけます。皆さまのご入会を心よりお待ちしております。

年会費	
個人会員	2,000円
家族会員同伴者1名まで	3,000円
シルバー会員(65歳以上の方)	1,000円

- 受付は当館1階チケットカウンター横の「友の会カウンター」のみとなっております。
- 会員証の有効期限は、翌年の同月末日までです。
※詳細は当美術館までお問い合わせください。
Tel.03-3280-0099

友の会特典	特典内容
収蔵展・映像展	無料 ○会期中は何度でもご覧いただけます ○家族会員の方は、同伴者1名まで無料
企画展・共催展	割引 ○御利用いただけない場合もございます
ミュージアムショップ	5%引き ○一部商品は除きます
カフェ	ブレンドコーヒー、ダーズリン紅茶を200円引き ○詳細はお尋ねください
その他	○写美ニュース「eyes」送付 ○1階ホール(実験劇場)の割引 ○ロゴス渋谷店で1,000円以上のお買上につき5%割引(洋書・洋雑誌)など